

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年1月26日 (金)
 NO. 828号 本号3頁

国会開会日、「安倍9条改憲反対！」と声を上げる！

通常国会が開会した22日、衆院第2議員会館前では、「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」「総がかり行動実行委員会」「共謀罪NO！実行委員会」の3団体が呼びかけた集会が開かれました。600人が参加し、「憲法9条改憲をぜったい止めよう」「共謀罪法廃止！」「みんなの力で政治を変えよう」と声をあげました。

主催者あいさつした、総がかり行動実行委員会共同代表の小田川義和さん（全労連議長）は、「安倍政権による改憲を止めることが私たちの最大の課題」と強調し、9条改憲に反対する3000万人署名を集め世論を変え、「改憲発議ができない状況にしていこう」と訴えました。

寒風に雪が舞う中、野党の国会議員も多数参加。立憲民主党近藤昭一副代表、日本共産党志位和夫委員長、社民党福島瑞穂副党首、参院会派「沖縄の風」糸数慶子参院議員が、「憲法改悪を許さないため、みなさんと力を合わせていきたい」とそれぞれスピーチしました。

共産党からは、多数の衆参国会議員が参加。代表して志位和夫委員長があいさつ。志位氏は、当面するたたかいとして改憲阻止と沖縄・名護市長選挙を「絶対に負けられないたたかいです」と強調しました。安倍「働き方改革」の問題点や、原発ゼロを求めるたたかいにもふれ、「市民と野党の共闘をさらに発展させ、安倍政治を終わりにさせて、国民の声が生きる新しい政治をつくりましょう」と呼びかけました。

その後、「仲間からの連帯あいさつ」として、違憲訴訟、雇用アクション、共謀罪対策弁護団の仲間から、それぞれのとりくみとともに、安倍9条改憲阻止、安倍政権打倒の決意が語られました。



参院での共謀罪法廃止法案の提出を求め、議員と市民が集会

国会開会日22日の午後、「共謀罪廃止のための連絡会」の主催で、「共謀罪廃止法案」を参院での提出を求め、「共謀罪法の廃止を求める議員と市民の1・22院内集会」が参院議員会館で開かれました。昨年、衆院で野党5党派が提出した「共謀罪廃止法案」を参院でも提出しようと、開催されました。

集会では、各団体の参加者が発言。共謀罪対策弁護団の三澤麻衣子弁護士は「今年の異常な法案審議をこれから何度も思い出してほしい。盗聴や監視カメラなど、デジタル捜査の拡大が懸念されるが、共謀罪と合わせて、捜査機関による監視を監視しよう」と訴えました。

角田富夫さんは、若者を中心に普及している無料通信アプリ「LINE（ライン）」の運営会社が昨年、公表したレポートを紹介。レポートは、捜査機関の依頼で提供した契約者情報の件数を明らかにしています。角田さんは「日本の通信事業者で、このようなレポートを出したのは初めて。他の事業者もあいまいにせず、捜査機関への協力状況を契約者に報告する義務がある」と述べました。



MIC（日本マスコミ文化情報労組会議）の岩崎貞明事務局長は、「大垣警察市民監視事件」にふれながら、「警察がすでに行っていた市民監視を後づけで正当化するのが共謀罪。これを発動させない、一刻も早く廃止するために力を合わせる」と語りました。

日本ペンクラブ専務理事の山田健太専修大学教授や「戦争させない・憲法壊すな！総がかり行動実行委員会」の藤本泰成さんらも発言しました。

また、日本共産党、立憲民主党、社民党、沖縄の風の国会議員が参加。日本共産党からは、藤野保史衆院議員があいさつし、山添拓参院議員が紹介されました。

集会後、参加者らは参院の野党議員に廃止法案に向けた要請行動をしました。

安倍首相が施政方針演説 9条改憲に執念示す！

安倍首相は22日の衆参両院での施政方針演説で、「50年、100年先の未来を見据えた国創りを行う。国のかたち、理想の姿を語るのは憲法です。各党が憲法の具体的な案を国会に持ち寄り、憲法審査会において、議論を深め前に進めていくことを期待します」と語り、9条改憲に向けて執念を示しました。

また、安倍首相は、トランプ米大統領との「個人的な信頼関係」の下、日米同盟が「かつてないほど強固になった」と強調しました。そして、「沖縄の方々の気持ちに寄り添う」と言いながら、県民が「ノー」の審判を下し続けている名護市辺野古への新基地建設強行を改めて明言し、続発する米軍機の不時着や保育園・小学校への部品落下に全く触れませんでした。

北朝鮮問題をめぐっては、「圧力」だけの安倍首相は、韓国と北朝鮮による南北対話の実現など対話による解決の流れに触れず、「専守防衛」を逸脱する地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」や長距離巡航ミサイルの導入などの軍事力強化を唱えました。

今国会の焦点と位置づける「働き方改革」の名の下に、長時間労働を助長する「残業代ゼロ」や裁量労働制の拡大、過労死基準の残業を容認する時間外労働「規制」を進めると表明しました。「働き方改革は成長戦略だ」と述べ、その目的が労働者の命と健康の保護にないことを露呈しました。



各党が代表質問で改憲 首相改めて意欲「議論深めるべき時」

－希望の党玉木氏「立法事実がない改憲案には反対」－

衆院での代表質問が24日始まりました。立憲民主党の枝野氏は、憲法9条1項（戦争放棄）と2項（戦力不保持、交戦権の否認）を維持し、自衛隊の存在を明記する改憲案について、まず安全保障法制が立憲主義に反するとした上で、「今のまま自衛隊を明記すれば憲法は換骨奪胎される」と批判しました。また、安倍首相が「国のかたち、理想の姿を語るのは憲法だ」と述べたことを踏まえ、「定義について得意な認識を前提としたのでは、まっとうな議論ができるはずもない」と批判しました。そして、「憲法の定義は、近代国家では『主権者が政治権力を制限するルール』だ」と語り、国の理想の姿は「一党独裁でない限り。選挙などを通じて国民の声に基づいて選択肢、修正していくものだ」と述べました。

希望の党の玉木氏代表は、首相が提起した自衛隊の根拠規定を追加する改憲案については「自衛隊の役割が変わらないなら立法事実がない。立法事実がない改憲案には反対だ」「違和感を禁じ得ない。単に自衛隊を位置づけるとの議論は極めて不誠実だ」と述べました。しかし、地方自治に関する等の憲法改正案を示す考えを明言し、「憲法論議をリードしていく」と、立憲民主党との違いも見せました。希望の党の立候補者の政策協定では「憲法改正を支持し、憲法改正論議を幅広く進

めること」との項目がありましたが、玉木氏が「立法事実がない改憲案には反対」と述べたことは一定の変化と見ていいのでしょうか？希望の党への働きかけも重要です。

一民進党大塚氏 改憲 4 項目の緊急性や「立法事実」があるのかと質問一

参院での代表質問は 25 日始まりました。民進党の大塚耕平代表は、首相が 4 日「憲法のあるべき姿を国民に提示し、改正に向けた議論を一層深めていく。そのような一年にしたい」と述べたことを踏まえ、「あるべき姿」の具体的な内容や年内の国会発議を目標にしているのかをたずねました。

これに応え、安倍首相は憲法について「国のかたち、理想の姿を示すものだ」とし、「時代の節目でどのような国造りを進めていくのか議論を深めるべき時に来ている」と改めて改憲に意欲を示しました。また、首相は「改正の必要性や内容、発議の時期などは国会の議論や国民的な議論の深まりの中で決まていく」と述べるにとどめました。

大塚氏は、自民党が改憲で目指す「自衛隊の明記」「緊急事態条項の創設」「参院選『合区』の解消」「教育無償化」の 4 項目についても取り上げ、その緊急性や改正の根拠となる「立法事実」があるのかを質問しました。しかし、首相は「首相として答弁しており、差し控えたい」と答えませんでした。

各地のとくみ

北海道 19 日夜、総がかり行動を札幌駅前できり広げる

安倍政権に 9 条改憲ノーを突きつけ、改憲発議を阻止しようと、戦争をさせない北海道委員会は 19 日夜、総がかり行動を札幌駅前できり広げました。

参加者は、「安倍はやめろ！声あげよう戦争法 共謀罪は廃止」の横断幕を掲げ、白い息を弾ませて元気よくコール。3000 万人署名を進めようと呼びかけました。

看護婦の桑田伸子さん（54）は「戦争法がなくなるまで行動します。人の命を守る仕事なので、人の命を奪う戦争は許せません」と話します。

平岡恵子さん（64）は「地域を回っていると、3000 万人署名は政治的だからと断られたりしますが、全然めげません。憲法を守らなければいけないのは国民でなく、安倍首相です。わかってもらいたい機会です」と意気込みました。

若者グループ・ユニキタの更科ひかりさんは「夫が自衛官の友人は、9 条を変えてほしくないと言いました。安倍首相は声なき声に耳を傾けると言うが、友人の声は入っていません。私たちは大きな声を出していかなければなりません」と表明しました。

道労連の黒澤幸一議長、北海道平和フォーラムの長田秀樹代表らが訴え。日本共産党の畠山和也前衆院議員が参加しました。

広島 「子どもや孫のために、平和を引き継ぎたい」と署名

広島の憲法と平和を守る共同センターは 24 日、広島市内の繁華街で宣伝・署名活動をしました。「憲法 9 条世界の宝」の横断幕を掲げ、ビラを配って安倍改憲に反対する 3000 万人署名への協力を呼びかけました。

日本共産党の大平喜信前衆院議員は、安倍首相が 22 日の自民党総会で改憲を「実現する時を迎えている」と発言したことをあげ、「憲法を尊重し、擁護する義務を負っているにもかかわらず、憲法を変えるとの発言は憲法違反だ」と批判。「被爆地広島、平和都市広島から安倍 9 条改憲ノーの声を上げ、思想信条の違いを超えて、力を合わせて改憲発議を阻止していこう」と訴えました。

署名した石堂百合子さんは「子どもや孫のために、平和を引き継ぎたい。憲法を変えたら、平和は引き継げないと思います。憲法を変えてほしくありません」と語りました。